

校舎配置案ごとの特徴比較表

資料2

				A	B	C	D
校舎配置案							
No	項 目		条 件				
1	校舎環境	床面積	プールは屋外	・約7700㎡(プール除く) ・まとまりのある校舎配置となることで、廊下面積が少ない。 ・全ての普通教室前にワークスペースを設ける余地あり。	・約7800㎡(プール除く) ・まとまりのある校舎配置となることで、廊下面積が少ない。 ・階が増えるため、階段等の面積が多い。 ・一部にワークスペースを設ける余地あり。	・約7800㎡(プール除く) ・長い校舎となることで、廊下面積が多い。 ・一部にワークスペースを設ける余地あり。	・約7800㎡(プール除く) ・長い校舎となることで、廊下面積が多い。 ・階が増えるため、階段等の面積が多い。 ・一部にワークスペースを設ける余地あり。
2		階数	建築面積2700㎡以下	・5階(屋上プールの更衣室と機械室が5階)	・6階(屋上プールの更衣室と機械室が6階)	・5階(屋上プールの更衣室と機械室が5階)	・5階(屋上プールに加え一部特別教室、更衣室、機械室が5階)
3		普通教室配置	十分な日照のある位置に配置	・校庭向きに15室、窓は東北向き。	・校庭向きに15室、窓は西南(病院側)向き。	・校庭向きに15室、窓は東南向き。	・校庭向きに15室、窓は西北向き。
4		普通教室採光		・午前の採光は良。午後にかけて陰る。	・午前は陰る。午後の採光は良。西日が入る	・午前の採光は良。午後にかけて陰る。	・朝方の採光は良。午後から陰る。
5		児童昇降口		・昇降口は正門に近い。校庭外の昇降口前スペースを広くでき、広い雨除け整備も可。	・昇降口は正門から遠い。校庭外の昇降口前スペースも狭い。広い雨除けは整備できない。	・昇降口は正門に近い。校庭外の昇降口前スペースを広くでき、広い雨除け整備も可。	・昇降口は正門から遠い。校庭外の昇降口前スペースも狭い。広い雨除けは整備できない。
6		高低差		・校舎周辺は大きな高低差なし。 ・校舎と校庭の高低差は最大約50cm。	・校舎周辺に高低差あり、階段等が必要。 ・校舎と校庭の高低差は最大約90cm。	・校舎南側は周囲と大きな高低差がないが、北側は高低差があるため、階段等が必要。 ・校舎と校庭の高低差は最大約50cm。	・校舎南側は周囲と大きな高低差がないが、北側は高低差があるため、階段等が必要。 ・校舎と校庭の高低差は最大約50cm。
7		車両出入口	給食用に車両出入口を1箇所整備	・道幅11mの病院側道路からの車両出入。	・道幅9mの住居側道路からの車両出入。	・道幅11mの病院側道路からの車両出入。	・道幅11mの病院側道路からの車両出入。
8	校庭環境	広さ	既存1800㎡×1.5倍以上	・約2,700㎡ ※現校庭の1.5倍	・約2,630㎡ ※現校庭の1.46倍	・約2,070㎡ ※現校庭の1.15倍	・約2,250㎡ ※現校庭の1.25倍
9		トラック	100mトラックと50m走路	・100mトラックと50m走路。	・100mトラックと50m走路。	・80mトラックと50m走路。	・80mトラックと50m走路。
10		日照		・冬季、午前中は良。午後にかけて陰る。 ・春にかけて日照は改善し、15時でも半分程の日照がある。	・冬季、常に一部又は概ね全体が陰る。 ・春にかけて日照は改善し、15時でもほぼ全域で日照がある。	・冬季、午前中は良。午後にかけて陰る。 ・春にかけて日照は改善するが、15時の日照は1/3程度。	・冬季、常に一部又は概ね全体が陰る。 ・春にかけて日照は改善し、15時でも2/3以上日照がある。
11		見通し		・普通教室、職員室等から全周を確認できる。	・普通教室、職員室等から全周を確認できる。	・普通教室、職員室等から全周を確認できる。	・校庭の端の確認がし難い。
12		車両アクセス	校庭整備用に車両出入口を1箇所整備	・北側一方通行道路のみ。 ・高低差が小さい為、アクセスし易い。	・西側相互・一方通行道路に面する。 ・高低差が小さい為、アクセスし易い。	・南側一方通行道路のみ。 ・高低差が大きい為、アクセスし難い。	・北側一方通行道路のみ。 ・高低差が小さい為、アクセスし易い。
13	近隣環境	校舎からの音		・住居に隣する教室開口部が少なく、音の影響は最も少ない。特別教室は病院側。	・特別教室等が住居側に開口部を多く有する。プラスバンドなどの練習に対し配慮が必要。 ・給食調理室の運用にも住居への配慮が必要。	・特別教室等が北住居側に開口部を多く有する。プラスバンドなどの練習に対し配慮が必要。	・特別教室等が東住居側に開口部を多く有する。プラスバンドなどの練習に対し配慮が必要。
14		校庭からの音・砂埃		・住居に対しては、図中の左右、上の3方に漏れやすい。	・住居に対しては、図中の左右の2方に漏れやすい。なお、拡声器は病院棟の反響に配慮を要する。	・住居に対しては、図中の上・右の2方に漏れやすい。	・住居に対しては、図中の上・左の2方に漏れやすい。
15		日影		・冬季 朝に北西の一部住居以外、ほとんど影がかからない。	・冬季 北西から影がかかり、夕方の北東は広範囲にかかる。	・冬季 北西から北東にかけて影がかかる。	・冬季 北西の一部と、夕方に北東に長く影がかかる。
16		街との関わり		・学校正面口は中杉通り方向。 ・正門前に屋根のあるまちかど広場を設置できる。	・学校正面口は北西側住居方向。 ・正門前は校舎と校庭で段差があり、屋根のある広場の整備は難しい。	・学校正面口は北西側住居方向。 ・正門前は狭いが、校舎のピロティで屋根のある広場を整備できる。	・学校正面口は西側住居方向。 ・校庭確保のため正門前は狭くなるため、屋根のある広場の整備は難しい。
17	水害・震災	避難所アクセス	体育館	・校舎が西側相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。 ・体育館に向かって道路面はやや上勾配。高台に向かって避難。	・校舎が北側一方通行道路に面するため、車両にアクセス制限が出る。 ・体育館に向かって道路面は下勾配。低地に向かって避難。	・校舎が南側相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。 ・体育館に向かって道路面は上勾配。高台に向かって避難。	・校舎が南側相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。 ・体育館に向かって道路面は上勾配。高台に向かって避難。
18		浸水対策	校舎及び体育館	・想定浸水深からみて高い地盤側を中心に校舎を建てて対策。	・校舎1階が想定浸水深よりかなり低く、止水板等による対策が必要。	・想定浸水深からみて高い地盤側から低い位置にかけて校舎を建てるが、高い面に校舎1階を合わせて対策。	・想定浸水深からみて高い地盤側から低い位置にかけて校舎を建てるが、高い面に校舎1階を合わせて対策。
19		雨水流出抑制		・校庭が敷地内で低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。	・校庭が敷地内で高い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設も、東側には効果が出にくい。 ・校庭を切り下げる場合、道路面に1m前後の段差ができる。	・校庭が敷地内で低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。	・校庭が敷地内で低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。

※本図面は検討段階のものであり、各種手続き・届出等により変更となる可能性があります。